

LMSは第三世代へ 「LPMS」が実現する 自立／自律型の『学びの場』

LMS市場で4年連続 No.1 のシェアを誇る東芝ソリューションが、「LMSはこれから第三世代に入る」と宣言し、自立／自律型人材の育成をサポートする新しい学びの形“LPMS”を年内にリリースする。それに先立ち、第三世代のLPMSとは何か、それを導入することで受講者や企業はどのようなメリットを得ることができるのか、同社の外山友紀氏、古場亜紀子氏にお話を伺った。



外山 友紀氏
製造・産業・社会インフラソリューション事業部
業務ソリューション技術部
HRMソリューション技術担当
主任



古場 亜紀子氏
製造・産業・社会インフラソリューション事業部
業務ソリューション技術部
HRMソリューション技術担当
主任

一人ひとりに最適な学びを提供

LMSが普及して15年近く経ち、この秋からはいよいよ第三世代と定義できる新しい学習形態が生まれようとしている。

第一世代はWBT（Web Based Training）、つまり通常のeラーニングだ。全社員に向けた底上げや周知徹底教育に使われ、あくまでも集合教育の補完として行われていた。

第二世代はLMS（Learning Management System）で、従業員一人ひとりのスキルレベルがわかる情報を集約し、見える化したもの。機能面ではブロードバンド化に伴う動画の普及、モバイル対応、グローバル化などの充実が図られ、現在は

この第二世代に当たる。

では、その先にある第三世代とは、どのような教育ツールで、どのような特徴を持っているのか。東芝ソリューションの外山友紀氏は、次のように説明する。

「第三世代はLearning Portal Management Systemで、私たちが“LPMS”と呼ぶものになります。第二世代のほうが企業が学ばせる“受動型”の教育ツールだとすれば、第三世代は自ら考えて学ぶ自立／自律型人材に“学びの場”を提供するラーニング・ポータルになります。一人ひとりに合った情報を提供するポータル機能、そして能動的な情報収集をサポートするコミュニティ、ネットライブラリの機能を持つものになります」

LPMSの3つの機能

東芝ソリューションは、こうした機能を持つ新しい学びの場、LPMSを年内には市場に投入する予定だ。

まずは本年11月6、7日に行われる『東芝クラウド&ソリューションフェア 2014』で、新世代のLPMSについて発表する。そこではLPMSの3つの機能に注目が集まりそうだ。これについて、同社の古場亜紀子氏が詳しい内容を補足してくれた。

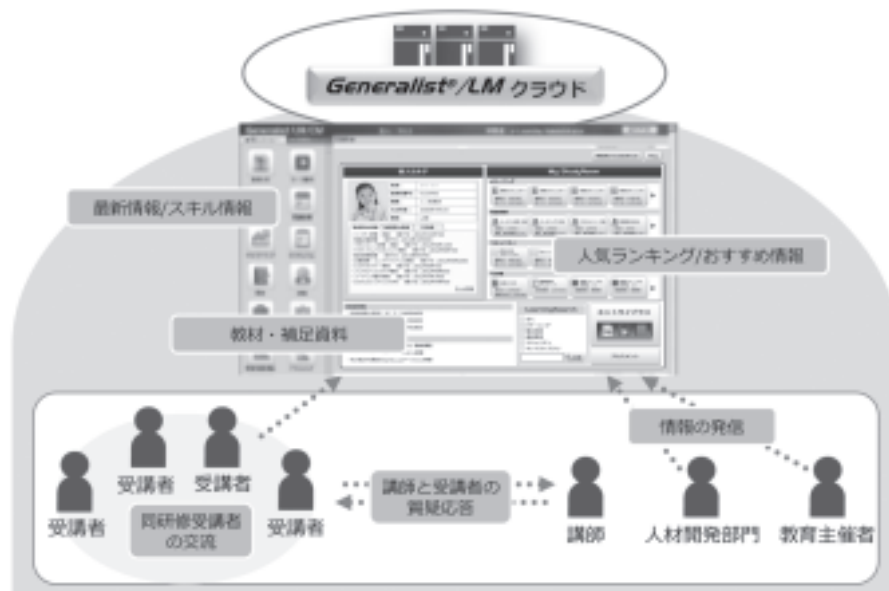
「ポータル機能は“学習の場を提供する”というコンセプトで、さまざまな情報をその人向けにカスタマイズして提供できるようになっています。例えば、お勧めの講座は何か、

今人気の講座は何かといった情報を提供できます。ネットライブラリは“いつでも・どこでも・誰でも”情報を見ることができるものです。自由閲覧可能なWeb上の図書館としてネットライブラリを搭載し、自ら学びたい人のニーズにより応えられる仕組みを提供します。例えば、集合研修で配付した資料を見る、授業で出た宿題を共有するなどの使い方が考えられます。最後のコミュニティは、ソーシャル・ラーニングを実現するために、さまざまなパターンの意見交換の場を設けました。また、社外のベンダーも自由に参加できるコミュニティをつくることができ、それによって受講者はさまざまなコンテンツをより自由に選ぶことができます」

こうした機能は、実際にどのようなに使われるのだろうか。LPMSは、日々の業務に結びつけてパフォーマンスの質を高める使い方が可能だ。その一例としては、日々の業務の中で何か“困ったこと”や“わからないこと”、“確認したいこと”が発生した時に、図書館から本を借りるように資料や教材を確認し、振り返りを行い、課題を解決する——といった使い方だ。

従来型のeラーニングでは“一定の期間にこのコンテンツを学習しなさい。受講したかどうかはチェックして、フォローアップします”というところまでがeラーニングでできることであり、めざすところは“知識の習得”である。それに対してLPMSのめざすところは“学習した後のアウトプットを高めること”で

図1 LPMS概念図



ある。学んだことを学びっぱなしにさせず、業務に活かす仕組みができているのだ。

企業内教育は本来、社員のパフォーマンスを高めるために実施されるものである。その意味で、LPMSは本来の企業内教育のあるべき姿を示していると言えるだろう。

堅牢なセキュリティと“見せない化”

東芝ソリューションが提供するLPMSは、セキュリティ面が堅牢なこと、また見せる情報・見せない情報を自由に設定できる点も特徴だ。例えば、従来型のLMSをグループ企業全体で導入した場合に、個別の企業に情報をどこまで見せるか・どこまで見せないかという問題が発生している。そうした場合に、グループ全体で共有すべき情報、個別の企業の中でだけ共有すべき情報などの公開範囲を容易に設定できることが必要となる。

また、個人情報の漏えいなど、セキュリティの問題が頻発している昨今、情報の見える化だけでなく“見せない化”も必要になるというのが東芝ソリューションの考えだ。例えば、あるコンテンツには社内のPCからはアクセスできても、それ以外（自宅のPCやモバイル機器など）からはアクセスできないなどのセキュリティをかけることもできる。

モバイル化とは逆行する機能でもあえてつけ加え、クラウド基盤のシステムだからこそセキュリティ面を盤石なものにしたいという考えだ。

蓄積されたノウハウの結晶

東芝ソリューションが第三世代のLPMSを他社に先駆けて実現できるのは、システム開発力や技術力だけではなく、「Toshiba e-University」でノウハウを蓄積してきたという理由も大きい。

「Toshiba e-University」とは、東

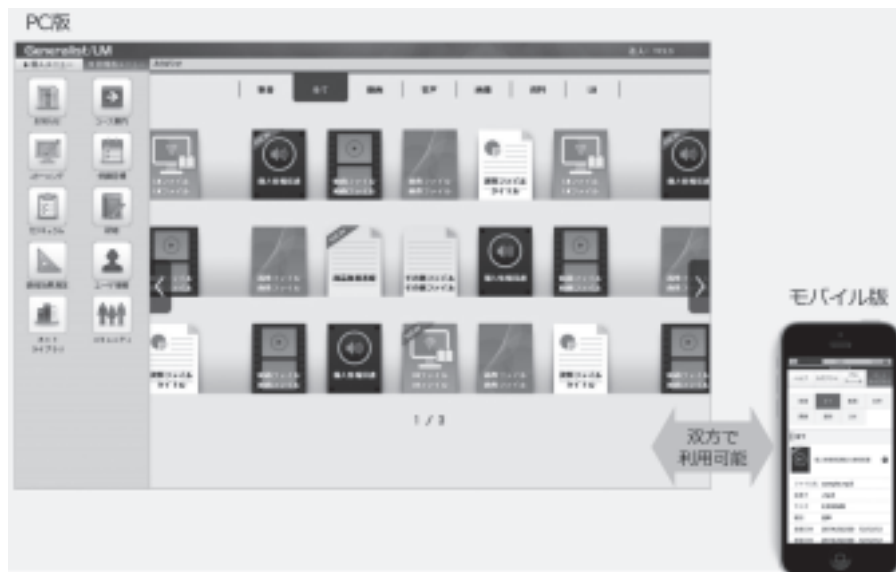
芝ソリューショングループの人財育成の柱となる、全社員を対象とした教育制度。eラーニングを中心に、集合研修とのブレンドも含めて多様なラーニング方式を活用した企業内大学だ。まだ日本国内では全員参加型の企業内大学がほとんどなかった2002年に設立して以来、東芝ソリューションは、システムづくりはもちろん、コンテンツや運営方法に至るまで、そのノウハウを蓄積してきた。全社員対象となると、当然、業務多忙や客先常駐、出張など、さまざまな状況の社員が学習できるシステムでなければならない。モバイルラーニングへの対応も、むしろ必要である。

現在1万人が学ぶこの巨大な企業内大学では、毎年実施しているリスクコンプライアンスなどのeラーニング講座で、毎回100%受講を達成している。こうした状況を試行錯誤しながらつくり上げてきた実績があるからこそ、次世代の学びの場が構築できるのである。

東芝ソリューションの実績は、もちろん東芝グループ内にとどまらない。同社が提供する人財育成ソリューション『Generalist/LM/CM』は、LMSパッケージ市場、ASP/SaaS型LMS市場において、どちらも4年連続シェアNo.1*を達成している。導入企業は生損保業、金融証券業、流通業、製造業などさまざまな分野の3500社以上、利用者数は470万人以上にも及ぶ。

東芝ソリューションが提案する新しい学びの場は、こうした実績から得たノウハウの結晶だと言えるだろう。

図2 ネットライブラリ



第三世代の、さらにその先へ

LPMSの正式なリリースに注目が集まっているが、実は同社は、さらに先を見ている。

「数年先の話にはなりますが、2つのことを考えています。1つは“ラーニング・オブジェクト”という考え方を実現したいと思います。これは集合研修や通信教育や先ほどのコミュニティなどの教育資源を、一人ひとりの環境を含めたファクターを考慮してカスタムメイド化し、LMS上で実施できないかということです。もう1つは、“リアル研修のIT化”です」(古場氏)

「それは、例えば受講者全員に教材の代わりにタブレットを配付し、受講者全員がどのページを開いているか、質問に対する正答率はどのくらいかを講師が瞬時に確認しながら授業を進めるといったことを想定しています。また、受講者もタブレッ

ト上に紙の教材と同様にメモやマーカーを入れ、その情報をクラウド上にアップして復習時に確認できるなど、全く紙を使わない研修の実現をめざしていきたくて考えています。さらに、音声認識機能と連動させたリアルタイムのテロップ表示を出すことで五感に訴え、受講者の知識習得を促進したり、聴覚障がい者への支援にも利用していただきたいと考えています」(外山氏)

第三世代の学びの場であるLPMS、そしてさらにその先を見つめる東芝ソリューションの今後に、大きな期待が寄せられている。

※出典:ITR (ITR MARKET VIEW人事・人材管理市場2013)

●お問い合わせ先
東芝ソリューション株式会社
〒212-8585
神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34
TEL: 044-331-1191
E-mail: generalist@toshiba-sol.co.jp
URL: <http://Generalist.toshiba-sol.co.jp>